

指導資料

社会 第100号

鹿児島県総合教育センター

- 小, 中学校, 盲・聾・養護学校対象 -
平成14年11月発行

基礎・基本の定着を図る社会科の学習指導と評価

基礎・基本とは、学習指導要領の示す目標及び内容の総体である。これらの定着を図るためには、児童生徒の学習状況を適切に評価し、指導に生かすことが重要である。

そこで、本稿では指導と評価の一体化を通して、基礎・基本の定着を図る学習指導の在り方について述べる。

1 評価の基本的な考え方

(1) 評価の機能と役割

評価においては、身に付けた結果の知識の量だけを評価するのではなく、学ぶ過程で発揮された児童生徒のよい点や可能性、進歩の状況等も参考にしながら、学ぼうとする意欲、思考力や判断力などを積極的に評価しなければならない。

そのためには、学力をいくつかの側面から分析、構造化してとらえ、多面的に評価しようとする観点別学習状況の評価が重要である。これまでも、この評価が取り入れられてきたが、十分には利用されていなかった。そこで、評価を学習指導の改善に生かすといった評価機能を再認識して、目標に準拠した評価を進めなければならない。

(2) 評価規準の作成

学習指導要領に示された目標に照らして、児童生徒の学習の到達度を客観的に評価するための拠りどころとなるものさしが評価規準である。各学校では、学習指導要領に示された目標及び内容を観点別に分析し、「おおむね満足できる」状況が児童生徒の姿でみえるような学校独自の具体的な評価規準を作成する必要がある。その際、国立教育政策研究所教育課程センター等で作成された評価規準を活用することも考えられる。

(3) 指導と評価の一体化

指導目標を達成させるためには、一般的に評価規準を基に、どの場面で、どのような方法で評価し、指導に生かしていくかなどを配慮して指導計画を立てる。その具体的な評価方法としては、教科の特性や学習活動の内容、発達段階、評価の観点などによって、ペーパーテストのほか、観察、面接、質問紙、作品、ノート、レポート等を用いることが考えられる。また、自己評価や相互評価等、児童生徒による評価も取り入れ、工夫することも大事である。評価の場として、一単位時

間では、すべての観点を評価するのでなく、ねらいに即して重点化を図り、評価が指導に生かされるようにする。ここで、「おおむね満足できる」状況でない場合の手だてや、「おおむね満足できる」状況にある生徒への具体的な方策もあらかじめ考えておく必要がある。

学習の評価によって教師の指導を改善し、児童生徒の学習状況を改善することは重要である。基礎・基本の定着を図るために、「その時、その場で、必要なこと」を指導したり、支援したりするとともに、定着が不十分な場合には、更なる指導の改善を図ることが大切である。

2 社会科における評価規準作成上の留意点

評価規準を作成するに当たっては、社会科では、指導すべき内容が規定されているので、指導の過程でどのような資質や能力を育成すべきかを再確認する必要がある。また、知識偏重に陥らないように学習指導要領に示された各単元や内容のまとめりごとの目標と内容を分析するとともに、実現させたい目標を明確にすることが大切である。

そこで、単元ごとの具体的な評価規準を作成するには、教科の目標、各学年・分野の目標及び内容、評価の観点の趣旨を踏まえて、それぞれの観点をより具体化していく必要がある。すなわち、教科の目標に基づき基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るため、「社会的事象への関心・意欲・態度」「社会的な思考・判断」「資料活用の技能・表現（小学校の場合、観察も含む）」「社会的事象についての知識・理解」の4

観点についてバランスよく評価できるようにすることが大切である。

3 指導と評価の計画

指導と評価の一体化を図るための指導計画は、年間を見据えたものにする。

まず、学習指導要領の目標及び内容から「単元の指導目標」を決める。それを基に、国立教育政策研究所の評価規準等を参考にしながら「単元の評価規準」を作成する。これを基に学習活動における「具体的な評価規準」を作成し、単元における指導と評価の計画を立てる。

また、実際に単元の中で評価を進める際には、次のような点に留意する必要がある。

- ・ 一単位時間の授業では、評価の観点を重点化する。
- ・ 様々な評価方法を工夫し、児童生徒の学習状況を適切に評価する。
- ・ 学習結果と過程の両面を評価する。
- ・ 必要に応じて、少しずつ記録をとる。

さらに、評価を記録する補助簿等も必要であるが、観点別の評価については単なる蓄積のみに終わらず、指導に生かす工夫をすることが大切である。

以下、中学校第2学年地理的分野の単元「世界の国々の調査」（東京書籍、全12時間）を例に、単元の評価規準及び評価計画を示す。

(1) 単元における評価規準

【単元の指導目標】

世界の国々から幾つかの国を取り上げ、地理的事象を見いだして追究し、地域的特色をとらえさせるとともに、国家規模の地域的特色をとらえる視点や方法を身に付けさせる。



【単元の評価規準】(指導目標を基に作成)

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断
世界の国々に対する関心を高め、その調査に意欲的に取り組み、世界の国々の地域的特色をとらえようとしている。	世界の国々の地理的事象から課題を見だし、それを環境条件や人々の営みなどと関連付けて多面的・多角的に追究するとともに、国家規模の地域的特色をとらえる視点や方法を考察している。

資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
世界の国々に関する地図や統計その他の資料を収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して活用するとともに、世界の国々の地域的特色を追究し考察した過程や結果をまとめたり、発表したりしている。	世界の国々の地域的特色とともに、国家規模の地域的特色をとらえる視点や方法などを理解し、それらの知識を身に付けている。

(2) 指導と評価計画の具体例(一部)

(: おおむね満足できる状況にある生徒への方策)
 (: おおむね満足できる状況にない生徒への手だて)

時間	学習活動	重点評価項目と具体的な評価規準				評価方法 評価を指導に生かす方策・手だて
		関意態	思判	技表	知理	
第1時	・アメリカ合衆国の人々は、どのような自然環境の中でくらしているのかを理解する。	【関心・意欲・態度】 アメリカ合衆国の自然環境を調べる学習に意欲的に取り組んでいる。				観察 発表 ：口絵や風景の写真に該当する地名が地図帳のどこにあるのかを具体的に指導する。
		【知識・理解】 アメリカ合衆国が多様な地域から成り立っていることを理解できる。				

第2時	・アメリカ合衆国の民族や文化には、どのような特色があるのかを理解する。	【思考・判断】 人種や民族の違いが、人々のくらしに与えている影響を、多角的・多面的に考えようとする。				発表 観察 ワークシート ：人口構成のグラフから、どのような人種や民族がいるか、具体的に挙げさせる。
第3時	・アメリカ合衆国の農業や工業には、どのような特色があり、どのような影響を与えているかを考える。	【技能・表現】 統計資料で農産物や工業製品の生産量を調べ、その特色をまとめることができる。	【思考・判断】 世界各国の農業や工業に与えている影響を、多角的・多面的に考えることができる。			観察 ワークシート ：農産物の生産量や工業製品の国別貿易額をグラフから読み取れるようにする。 ：小麦などを例に、生産量、輸出、相手国のデータを活用し、日本など事例となる国を挙げ、世界各国に影響を与えていることをまとめさせる。
第4時	・アメリカ合衆国が経済、文化などにおいて、どのような影響力を世界に及ぼしているかを考える。	【知識・理解】 英語の国際語としてのドル、軍事力などの視点からアメリカの世界における立場を理解できる。	【技能・表現】 アメリカ合衆国の自然条件、農産物や工業製品の分布を絵やイラストマップに表すことができる。			観察 イラストマップ(作品) ：多国籍企業など、アメリカ合衆国に関する他の資料についてインターネット等で調べさせる。 ：イラストマップ作成の際資料の丸写しにならないよう、資料から読み取ったことを記載させる。

4 評価方法の工夫例

評価を適切に行っていくためには、様々な方法を組み合わせて工夫していく必要がある。また、児童生徒による自己評価や児童生徒同士の相互評価などを生かすことや教育活動に協力した保護者、地域の人々、ゲストティーチャー等の感想などを参考にすることも有効である。

(1) 自己評価・相互評価の工夫例

各単元や単位時間の終了時に、これまでの学習を振り返り、観点別学習状況の評価に基づいて自己評価を行うことは大切である。このことにより、単元や単位時間の目標をより明確に意識させて自分を振り返らせたり、児童生徒一人一人をよりよく理解したりすることができるようになる。

また、児童生徒同士の相互評価と組み合わせることにより、自分をより客観的に見つめさせることができる。この方法は、特に、グループ学習など集団での学習形態をとる際に有効な手段である。

【自己評価カード例】

(小単元「多様な地域から構成されるアメリカ」の例)
A:よい B:ややよい C:あと少し D:もっと努力を

観 点	評 価 項 目	評 価
関心・意欲・態度	・世界の貿易の状況やアメリカの地理的事象に対する関心が高まったか。	A B C D
思考・判断	・世界各国の農業や工業に与えている影響を多面的・多角的に考えることができたか。	A B C D
技能・表現	・生産量、輸出量、輸出相手国のデータを読み取り、日本など世界各国に与えている影響を考えることができたか。	A B C D
知識・理解	・アメリカ合衆国の農業、工業、貿易や援助活動の現状を整理し、世界に与えている影響について理解できたか。	A B C D
感想・意見		

(2) ペーパーテストの工夫

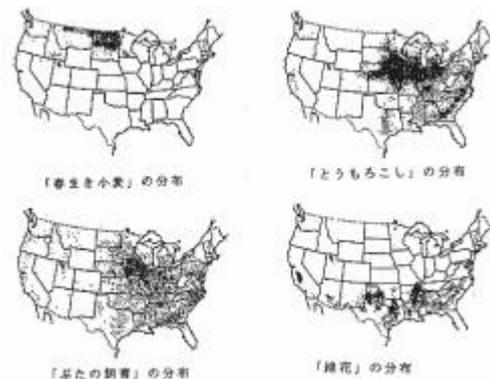
授業での学習内容が適切に評価できるテスト問題作成は重要であり、テストを本来の目的に生かすためには、次の3点に留意する必要がある。

ア 目標に準拠したテスト問題であるかどうかを確認する。

イ 指導と評価の計画を基に、個々の問題がどの観点の評価に相当するのかを検討してバランスよくテスト問題を構成する。

ウ 基礎的・基本的な内容の問題だけでなく、目的に応じて応用的、発展的な学力を評価するような創意・工夫を凝らしたテスト問題も作成する(下記参照)。

問 下記のア～エの文章で、次の農畜産物の分布図を説明した文章として適切なものをすべて選び、その記号で答えなさい。



説明文

ア 春まき小麦は、気候の冷涼な北部を中心に栽培されている。

イ とうもろこしは、降水量の少ない東部を中心に栽培されている。

ウ ぶたの飼育の分布は、とうもろこしの分布とよく似ている。

エ 綿花は、気候の温暖な南部を中心に栽培されている。

以上述べたように、適切な評価を行うためには、具体的な評価規準を適宜見直すことも必要である。そして、評価を指導に生かす観点から、評価方法の工夫改善に努め、指導と評価の一体化を図っていくことが重要である。

(第一研修室)